

様式 3

全教科の指導方法課題分析と具体的な授業改善策

教科名 (英 語)

	指導方法の課題分析	具体的な授業改善策	補充的・発展的な学習指導計画
第一学年	少人数習熟度別クラスに学習支援講師を取り入れ、1学級3クラス展開の授業を行っている。英語に対する興味や関心が高く、自己紹介など自分に関する内容を英語で積極的に表現しているが、基本的な語彙や語法など、基礎・基本の定着が課題となる生徒も見られる。	定期考査の達成率より、約6割から7割の目安でクラスを分ける。その際、点数結果だけでなく個別に面談を行い、最も学習効果が上がるよう図っていく。スタンダードクラスの人数を少なくし、よりきめ細やかな個に応じた授業編成を実施していく。	週1回の英文法の授業で、アドバンスクラスは副教材のA基本問題だけでなく、B標準C発展問題まで習得できるようにさせる。スタンダードクラスでは、基礎・基本の定着を重視しA基本問題を習得できるようにさせる。また既習事項の学び直しや反復練習などを施し、基礎・基本の確実な定着を図る。
第二学年	少人数習熟度別クラスに学習支援講師を取り入れ、1学級3クラス展開の授業を行っている。スタンダードクラスでは、1年次の既習事項や基礎・基本を定着させることが課題となる。上位層と下位層の二極化が見られがちなので、スタンダードクラスの人数を少なくすることが課題となる。	定期考査の達成率より、約6割から7割の目安でクラスを分ける。その際、点数結果だけでなく個別に面談を行い、最も学習効果が上がるよう図っていく。スタンダードクラスの人数を少なくし、よりきめ細やかな個に応じた授業編成を実施していく。スタンダードクラスの習熟度を増し、アドバンスクラスへ移行できる生徒を増やしていく。	週1回の英文法の授業で、アドバンスクラスは副教材のA基本問題だけでなく、B標準C発展問題まで習得できるようにさせる。スタンダードクラスでは、基礎・基本の定着を重視しA基本問題を習得できるようにさせる。また、生徒の夢や自己紹介を記述させたいうえでALTに発表し、英語で表現する力の育成を図る。
第三学年	少人数習熟度別クラスに学習支援講師を取り入れ、個に応じた指導を行っている 少人数習熟度別クラスに学習支援講師を取り入れ、1学級3クラス展開の授業を行っている。スタンダードクラスでは、2年次までの既習事項や基礎・基本を定着させることが課題である。	定期考査の達成率より、約6割から7割の目安でクラスを分ける。その際、点数結果だけでなく個別に面談を行い、最も学習効果が上がるよう図っていく。スタンダードクラスの人数を少なくし、よりきめ細やかな個に応じた授業編成を実施していく。スタンダードクラスの習熟度を増し、アドバンスクラスへ移行できる生徒を増やしていく。	週1回の英文法の授業で、アドバンスクラスは副教材のA基本問題だけでなく、B標準C発展問題まで習得できるようにさせる。スタンダードクラスでは、基礎・基本の定着を重視しA基本問題を習得できるようにさせる。また、体験活動や学校行事で生徒が実際に経験したことを記述させたいうえでALTに発表し、英語で表現する力の育成を図る。